

# 那須 英二 議員

日本共産党  
弥富市議団

## 市長の保育に対する 考え方を尋ねる

問

(1) 子ども・子育てに関する制度が国から市町村においてきたが、市は現行の保育をしっかりと守って、さらなる市民要求に応え発展させていくことが必要になってくると考える。

例えば、民営化をすると、上乗せ徴収ということもできるようなことが予想されている。そうすると、保育料が高くなり、子ども・子育てに携わっている人たちの負担が大きくなってしまいうことも懸念されるので、しっかりと今の公立保育で安心して預けられ、そ

して可能な限り負担の少ない保育料で、今後も市民と向き合って弥富の土台としての保育を守ってほしい。

市長の保育に対する考え方を示していただきたい。  
(2) 昨年、本市で実施した子ども・子育て支援に関するアンケート結果をもとに、今後の子ども・子育て支援新制度の計画をどのように考えているか。

重要施策の一つとして  
今後も進めていきたい

答 市長

(1) 「子育てするなら弥富市へ」をスローガンに掲げ、保育行政を含めた子育て支援の施策を市の重要施策の一つとして進めてきた。これからできる限り、いろいろな子育て支援について継続していきたい。

本市を取り巻く財政状況は将来的には決して楽なものではないが、来年度については、基本的には保護者の負担が増えないように保育料を設定していきたい。単に保育料の問題だけではなく、保育全体をどのように進めていくかということの大きな視野に立って考えていかなければならない。そうした意味では、市内の私立の幼稚園が認定子ども園に移行することも、市として積極的に支援をしていきたい。  
また、保育行政については、保育所の民営化の問題

も含めて研究していかなくてはならない。

答 民生部長

(2) 子ども・子育て支援新制度については、基本的に、保育所、幼稚園、認定こども園だけでなく、地域の子育ての支援を充実させることも目標の一つである。こうした中で、地域子育て支援の拠点である子育て支援センターの機能強化や、一時預かり、病児・病後児保育の実施などを現在策定中の子ども・子育て支援事業の中で計画していきたい。  
また、一時預かりについては、現在建設中の新白鳥保育所で来年度4月から実施ができないか計画している。

## 児童クラブの受け入れ年齢 の引き上げに対する対策は

問

(1) 市内の児童クラブは、現行は小学3年生まで受け入れているが、来年度4月から小学4年生から6年生も受け入れることになった。

満員になる所も想定されるが受け入れ対策はどう考えているか。

(2) 児童クラブの利用料金の軽減や減免などを積極的に行っていたきたい。  
本市の減免制度の基準と対象者数を尋ねる。

## 施設の改修で環境 整備を進めていく

答 児童課長

(1) 年齢拡大も踏まえて児童クラブの環境整備を進めていかなければならない。  
今年度は、定員いっぱいのは、施設の改修などで定員の増を考えている。

答 民生部長

(2) 児童クラブ利用の減免制度は4種類ある。①生活保護世帯は全額免除で対象者は4名。②前年度分の市民税非課税世帯も全額免除で対象者は10名。③遺児手当の受給世帯などは半額免除で8名。25年度より④就学援助の受給世帯が半額免除で対象は2名。  
合計24名となっている。